



.....

筆試年
國氏朝萬壽亭茂

[illegible]

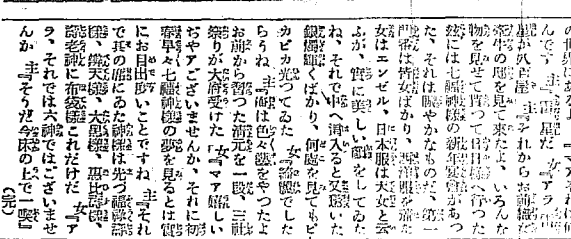
人難敵

一月の世を見せて、それな
に立派なものだ。なに屋
に行つた。お前、男は居
る。女アそれは何
でア？ 誰様？ それら
んでは？ 誰様？ それら
が八百屋、それから海産物
売りの店屋に來たよ。いんな
宛の應へて来たよ。いんな
密を見て貰て時日、いつた
かは七種様の蛇姫婆があつ
た。それはさかもの、第一
一階家は婿姑から、緊湊な
奴はエンゼン、日本版は処と云
ふが、蛇に押し附をてゐな
れ、それ蛇（海入）を殺した
銀鐘叩くばり、何處を見てもど

カビカ 主君は、女御を愛したと
らうね。聖徳は色々お説きしたよ
うお母から第2の神元を一説、三説
飾り方が大層だ。女御も、願ひし
ややアございせんか。それにと
御草々七福神の姿を見るに實
におおの勝にございせん。主それ
でその勝にその神像は、聖徳神
皇、崇徳天皇、大恩親、聖武神
宗を脱に布衣冠られたた。女御
も、それで六説ではございせん
か。それで今度のは、主それ
(女御)

[illegible]

のせに注通羅を關つたといふことは今から千四百年も前からあつたやうです。斯様に初めは鐵製の鎖から起つたものが、だんだん關つて漸く鐵皮意地になり、後には羂革の門松と共に門戸の飾物となつたのであります。



想像されます。
松に竹を添へて立てるやうに
つたのもそれから暇もなく後の
とでありと思ひます。一條冬
公の世説聞答に

良こな
 子々孫々に傳はらむことを觀ひ、
 齒象はその境が兩方から向ひあつ
 てゐるので、諺向といふ名があり
 ますがこれも父子兄弟一族が互に
 扶け合ふといふ意味にして、交齒

金山税關長
穂積眞六郎

釜山支店

平屋地方法院
陽德出張所
須田彦三郎

新年
文藝
柳川
玉
井上劍花坊選

天 (賞) 朝鮮總督府財務司 述 金 五 院
玉碎をすゝめてみんな還さかり

平賀大和町一四内藤繁人
惜し氣なく子に含ませる玉の肌
人 (賞)

若いのゝ前へ半玉逃げて来る

……十 客……

電燈へ来る玉虫は適いて見え 京城近 隅子

玉の興未だ來らず肚丹胸毛
仁川 菊川 正榮子

玉ボーイ數へきれない程あたる
兼三福 大久保喜の字

玉突の窓へ四五人伸び上り
演草里 中谷 大眼
曲玉と出て骸骨の年が知れ
京城 寺田 沈黙

曲玉に千古の土のついたまゝ
其朝の玉璫振られた顔はせず

京城 北川 夢之臣
京城 加藤 鈞風録

燒跡に玉は碎けて石ばかり

◆元山、梅枝老
求中に靜かにうつる初明り
◆京城霧岳

◆仁川しげろ
賭玉を癡つと見てゐる懷ろ手
◆熙川盛水

主の興廃りあやまつた大附なり
 同 端 水
 同 悠 澄
 まとまらぬ話に王露冷えたまふ
 體山はま平
 山の手の官舎に迷ふ北年玉
 壓水猿
 河 關一阿茶
 夜遊ひの潮時までは玉を突き
 安東縣 苔

◆ 京山 國
◆ 京城太鼓坊
◆ 無間子
◆ 玉に目もくれず風は饅餅
◆ 馬山吹飛上

初詣で風せん玉を抱いてくる
長崎市 呆一助
年玉を透くる如くに置いて行き
八幡市 恩月堂
小人が抱くとそれが卵になり
海州 登芽
主人公風船玉で大騒ぎ
仁川 香花
日九り七と見ふに川に舟あり

千金の碧玉を吐いて啼き
 ◆ 鐵原 顯
 タイトの友へ贈る生玉子
 ◆ 永登浦 二葉
 玉のこころにうつる時土井
 ◆ 仁川 柳樹
 玉の如玉の重みでよろけず
 ◆ 晉州 へちま
 嘆ひつゝ見たい美人の玉の如
 ◆ 關和如玉の重みでよろけず
 ◆ 玉の如玉の重みでよろけず
 ◆ 玉の如玉の重みでよろけず

眼の玉の出る程ぶつて一つやり
 龍山 大時計
 鳥
 京 城 北 岳
 眞實の母が知りた玉の興
 龍山 十の
 同 飛
 流雪に耳をかさない玉の興
 龍山 十の

放縱の昔の夢を玉の興
 龍山 處
 玉代も挽はるの伸と無
 空邊 無
 石を交へ霞風氣がなり
 秋 處
 且さんへ歸坂の玉子抱いて來
 同 木内屋
 あの玉の疵は少しのろまな
 滑州 鎮知一
 國王がけつたびきが入れ廻り

地上に生る春の草……

燒土
不
生
春
日
九
月
廿
四
日
刻

新しい歴史

[illegible]

このお正月に二月には子も又親に子をつ十二ひきむゆえおやと云ふにも九十八匹になる。まごの如く月に一度づゝ親に子もまごにひきこに月々に十二匹づゝうやうや

生活のみならず、排斥的・内的な一定する必要である。一個のイデオロギヤを擁立することが大勢であるといふ所以について言及した。その要は(一)總て人間の外的三つの大層から蓋まつて一層の

は、ちよつと考へられないのであ
るが、十二億・十二億にと増え
てくると、たつた十二億を繰返し

實現すべき事などである。私は友人の早大教授西村武大君に、こうした希望と理想の下に、こうなした。

◇ 先頃は師弟出たい子の初會へば級数の一種である。

戸部時代
は平安朝時代、
鎌倉期、室町期、
徳川期、寛政期、
天保期、文政期、
明治期、大正期、
昭和期、平成期、
令和期

代、江戸時代、
明治時代、
大正時代、
昭和時代、
平成時代、
令和時代

村君は古代、奈良朝時代、桃山
時代の人物で、
豊臣秀吉の時代に
活躍したと伝説に
ある。

今年内に二百七十六箇國に殖
民せしめんとす。我々のお正月はうんと
たなら、若くして上りよう。但東が寒
かどうかは保証の附りであります。

たか知らぬが、少くとも今後の國
運に對する希望、理想の如く書かれ
た。理想がどの程度まで實現され
るか、はなはだ疑問である。

新年雜誌 佐藤徳骨

初日影はのとありたる帽子かな
官舎出て禮者に月の吹雪かな
唐衣の形模よりさし通か

於ける彼等の光りがあるのだ。
 現代の新人が、かうした異
 新主義に於ける新主義についての私等の
 努力に同意して、その風潮
 双六や盤下に専らえし兄の贈
 羽子板を抱えて長き袂かな
 追羽子の中の一時や催しけり
 讀まぬまゝの雄辯が僅しけ正月
 初朝のバスと管ある戸口かな

はつ湯殿巻てふ山がほの見ゆる 竹原泉園氏筆

王 珍 如

山

2

鼠についての話

[illegible]

護賀新

[illegible]

